



2015年「同友かがわ12月号」表紙より

特集

香川県中小企業家同友会元代表理事・相談役(三豊支部)
中小企業家同友会全国協議会元副会長・顧問

『故 三宅昭二氏を偲んで』

同友会における三宅昭二氏の歴史

年	期(香川)	香川同友会・中同協の経歴
1976年(S.51)	1期	香川同友会入会
1981年(S.56)	6期	副代表理事就任(1年間)
1982年(S.57)	7期	会長就任(6年間)
1988年(S.63)	13期	代表理事就任(12年間)
1990年(H.02)	15期	中同協副会長就任(22年間)
2000年(H.12)	25期	常任相談役就任(12年間)
2012年(H.24)	37期	相談役・中同協顧問就任(共に6年間)

はじめに

2018年8月21日 三宅産業株式会社取締役会長 三宅昭二氏(香川県中小企業家同友会元代表理事・相談役〔三豊支部〕／中小企業家同友会全国協議会元副会長・顧問)が享年85歳で永眠されました。香川同友会創立から長きにわたり同友会運動の先頭に立ち我々を牽引してこられた故人に敬意を表するとともに心からご冥福をお祈り申し上げます。



2013年 事務局長交代 退任慰労・就任祝いパーティー



2006年 第1期 経営指針を創る会



会員増強デー

故三宅昭二氏との思い出、お別れの言葉

代表理事 川北 哲

三宅昭二さんとは、7月に私の入院見舞いに来て頂いた折に、お互いの経営課題についてお話ししたばかりで、突然の訃報に驚きと悲しみで痛恨の極みです。三宅さんの魂が今ここに居るものと信じて、お別れの言葉を捧げます。

香川県中小企業家同友会において、1981年より副代表理事を1年、会長を6年、代表理事を12年、常任相談役を12年歴任し、中小企業家同友会全国協議会では1990年より副会長を22年務められました。副代表理事就任後、10年間で112名から2007名の会員増強を達成し、「踊り場のない増強」と言われしめ、香川同友会の底力を全国に知らしめました。

私が代表理事に就任した時は、常任相談役として、一歩引いたところで、私たちを含め香川同友会を支えて頂きました。ある時の理事会で私が議長をしていた時、意見がまとまらず、思わず多数決で議決しようとなりました。その時、三宅さんが「それでいいのですか？」とこちらを見ておっしゃられました。私は全身から冷や汗が出るの

を感じました。

同友会は「自主・民主・連帯」の精神による満場一致を目指し、徹底的に議論を尽くすというのが基本です。それを忘れて、安易に多数決に走ろうとした私に、三宅さんは優しく、そして厳しく教えてくれました。また、同友会は自己変革、自社変革で変わらなければ居る意味がないとか、中小企業は「金なし、人なし、情報なし」であるから、常に走りながら身支度を整えなければならぬといった、同友会の会員として、また経営者としての生き方、考え方など多くの事を教えて頂きました。この三つの事は、私の経営姿勢として常に意識をし、この教えて頂いたことを後輩の会員経営者へと伝えていくことが、三宅さんへの恩返しだと強く思っています。

三宅さんは、経営者としても私の目標でした。経営指針の作成、発表会など、三宅産業株式会社が行っていることを、とにかく目指して実施してきました。経営者としても経営内容としても、三宅さんに追いつけていませんが、数年后には私も事業を承継します。これからは、お互いの後継者が同じように競っていかばいいのではないかと思います。

最後に三宅さんは、いつも私の前にいて、そして人生でもこうして先に逝ってしまいました。せめて人生の長さだけでも三宅さんを超えさせて頂きます。三宅さんには高いところから、ご家族の皆さん、会社の社員の皆さんと私達を見守って欲しい、そう願います。

三宅さん、多くの思い出をありがとうございます。安らかに眠りください。

ミスター同友会 三宅昭二氏を
偲んで

代表理事 明石 光喜

私と三宅さんの出会いは、まだ入会して間もない頃のことです。神戸の全国大会に参加する為に、バスで向かう車中でした。たまたま隣り合わせで座った時、「あなたの会社はどんな悩みがあるのですか」と三宅相談役から声を掛けて頂きました。道中は同友会のこと、自社のことなど、とても優しく語りかけて頂きました。当時は代表理事をされていたので、「こりゃまたエライとこに座ったなあ!」と思いました。話をする中で、どんな三宅さんの謙虚な姿勢とお人



2015年 第38回 全国総会 in 岩手



2014年 シニア総会



2013年 第20期 同友会大学

柄に引き込まれていきました。その後、色々な場面でお会いし、私も支部や組織委員会の役員をするようになり、代表理事会に推薦され、副代表理事に就任することになりました。

真つ先に三宅さんを訪ね、「私で務まるのでしょうか？もっと適任者が？」など、相談に行った時のことです。「中小企業の経営者は、身支度を整えながら成長するものです。みんな同じです」との言葉を頂き、副代表理事をお受けしようと決意しました。代表理事に就任後も度々、三宅さんに教えを乞いました。香川同友会の「語り部」としてだけでなく、中同協の副会長としても全国から報告依頼が相次ぎ、我が事のように東奔西走するお姿は、今でも鮮明に思い浮かべれます。各地同友会の同志や三宅さんをお慕いする数多くの方々は、多分口をそろえて言われると思います。「三宅昭二さんの生きざまは、我々が目指す同友会運動そのものだ。まさにミスター同友会」。

今となれば大変悔まれますが、同友会理念と平和問題、三宅産業株式会社経営と同友会運動の分離一体のお話など、もつとお聞きしたかったものです。

三宅さんから教わったもう一つ

の言葉です。「人は連帯の中にいると感ずる時が最も幸せである」この言葉の意味を考える時に、三宅さんは生涯、会社や地域、そして同友会という組織のリーダーとして連帯の中心に身を置き、あてにし、あてにされる関係を構築すること、皆が幸せな時を過すことができる。決して見捨ててはいけない。という思いがあつたのではと、今更ながら思います。私にとつて永久欠番のヒーローです。ミスター同友会 三宅昭二さん、本当にお疲れ様でした。どうか安らかに眠りください。

故三宅昭二氏を偲んで

相談役 香川 重義

「香川さん、あなたは良く頑張っておられますね。同友会で会うと、いつも声を掛けてくださり、励まして頂きました。今も近くで話しかけてくれる三宅会長の優しい笑顔が目に見えます」。

弊社は、現在丸亀に本社を置いています。創業地は観音寺で三宅産業株式会社本社のすぐ近くで開業しました。そして間もなく同友会に入会し、三宅会長とは32年

の御縁となりました。三宅会長は年下の後輩の我々に、いつも穏やかな語りで接してくれました。常に周りに気を遣い気配りされる姿に、人間としての在り方を学ばせて頂きました。

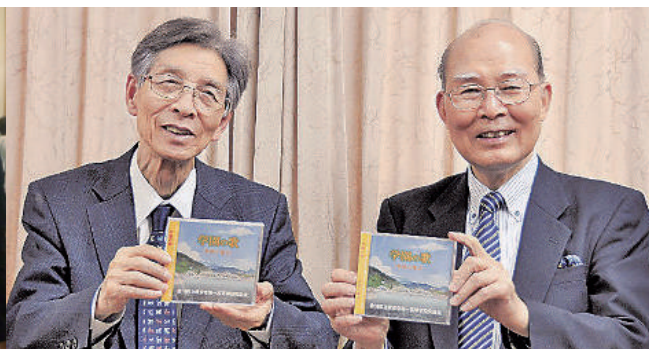
『人間尊重』を中心に置いた地域と共に歩む経営姿勢は、同友会の目指す企業像だと思います。また、いつも話されていた「走りながら身支度を整える」、「量は質をなす」、「不易流行」の言葉は、私の経営者としての心の置き方として深く残っています。

平成5年、香川同友会初の海外視察旅行『上海・蘇州・無錫』は三宅会長との一番の思い出として残っています。約20名の同行者全員の道中の様子を俳句にされたことや、上海で交流先の中国人家庭の夕食会に同席させて頂き、当時の中国の経済情勢や、市民生活の様子を見聞出来た事は、大変貴重な体験として残っています。

三宅会長は、「回りの人の御世話をし喜んでくれることが幸せ」と常に言っておられました。人々を幸せにする事が自分の幸せになる、幸せの伝道者だと思います。我々中小企業は、地域と共に歩み・生きる地元企業です。三宅会長は同友会理念のもと、企業活動



2018年 第41回 全国総会 in 宮城



2016年 四国新聞



2016年 高松第7支部総会 記念講演

を通じて人々の幸せな生活を願い、地域貢献に尽くされた崇高な人生だったと思います。経営者として、そして人間としての生き方の師として、たくさんの方の教えを頂きました。長い間の御縁、ご指導に感謝の気持ちでいっぱいです。

三宅昭二相談役との思い出

相談役 野田 勝利

私は香川同友会入会が平成4年でその後、中讃第2支部支部長時代に有名な講演者をお呼びしたブック講演会を企画し、何百人の参加者が来たと喜んでいました。しかし、直接は聞いていませんでしたが、「同友会はそういう会ではないと西の偉い方が言っている」とお聞きしたのが三宅さんでした。その後、全国大会などで移動時に一緒になった時、列車の中で同友会理念や経営体験のお話をたくさん聞かせて頂きました。

特に高知での交流会で私の車で行った時、高速が通れず一般道の山道で豪雨で4〜5時間かかった間、三宅さんのプライベートのお話や私の当時の悩みなど聞いて頂き、アドバイスを頂いたこと

を思い出します。

そして、中小企業憲章でヨーロッパへも一緒にしました。また、部会のシニア会の立ち上げで特に一緒にさせて頂き、たくさんのお話も聞かせて頂きました。

7月の全国総会in宮城では、おひとり電車を乗り継いでおいでになり、帰りは仙台駅近くの日本蕎麦屋さんで鴨南蛮をおいしく食べられ、電車が違うのでそこで別れました。その後、会員仲間のフェイスブックの投稿で、関西方面の新幹線が西日本豪雨で動かず、大阪で2泊されたとお聞きしましたが、その後のシニア会例会報告者のプレにも元気に参加されて、「90歳まで現役で頑張る」と話されましたが、残念な気持ちでいっぱいです。心からご冥福をお祈り申し上げます。

故三宅昭二氏を偲んで

三豊支部支部長 藤田 隆志

私が三宅会長のことをより深く知ることが出来たのは、私が初めて担当した例会のことでした。右も左も分からないまま座長の役目を受けたのですが、その例会を受

けての会長のまとめが非常に厳しいものでした。「この報告は同友会ではない」と。ただただ経歴と今からやることを話しただけで、中身が伴っていないことでの指摘でした。実はこの例会に初ゲストとして参加した方の言葉が、「あの会長の厳しい評価がなかったら、僕は同友会に入っていなかった」でした。私はこの出来事が一番心に残っている思い出です。

私が同友会に入ったのは、この2年前でしたが、会員として本当にスタートしたのは、この時になるのだと思います。現在、支部長をさせて頂いていますが、この時の気持ちはずっと持ち続けており、会員のためになる例会づくりというものを本気で考え続けております。

三宅会長が三豊支部に所属していたことを本当に誇りに思います。本当にありがとうございます。今残された私達が、しっかりと同友会活動をしていくことが、会長への恩返しになると思います。しっかりと想いを受け継ぎ頑張っていきたいので、どうぞ安らかに眠りください。そして、見守っててください。